

(様式第2号)

協働推進モデル事業計画書

※記載が複数ページにわたっても良いので、できるだけわかりやすく具体的に記載してください。ただし、この企画書はA4サイズ4ページ以内で作成してください。

提案団体名	団体名	一般社団法人ぐるーん (担当者 河本美津子)			
	合同提案団体 (*協議体・実行委員会等で提案される場合は構成団体をすべて記載してください。)				
協働する岡山市の担当課等と担当者	課名	岡山市こども総合相談所		電話	086-803-2525
	担当 2名	職名	措置課長	職名	総務課長
		氏名	植山 一夫	氏名	内田 英樹
提案事業の名称	里親委託を推進するための、里親制度の普及啓発及び委託促進事業				
提案事業の目的	里親制度の普及・啓発を通じた里親登録数の増加と、その養育スキルの向上を図ることにより、委託先の選択肢を増やすことで里親委託の推進を目指す。				
解決をはかりたい課題の緊急性・重要性等 (市民ニーズ含む) ※ニーズ把握等で行った調査資料等がある場合は添付してください。	<p>■課題の背景および現状</p> <p>平成27年3月に策定された「岡山県家庭養護推進計画」において、里親・ファミリーホームへの委託児童割合を3分の1にするという目標が掲げられ、さらに、平成28年6月には児童福祉法の改正により、国・地方自治体をあげての里親委託等の推進が打ち出された。これは「社会的養護の子どもたちを家庭環境の下で養育すること」が、国民全体で取り組むべき緊急かつ重要な問題であることを示している。しかし、岡山市においては平成28年度当初委託率は12.8%にとどまっており、国としての目標にはまだ遠いのが現状である。目標を達成すること、すなわち社会的養護の子どもたちが温かい家庭の中で人格形成をできる環境を実現することを目指していく上で、現在いくつかの課題が存在する。その課題について以下に述べる。</p> <p>■解決をはかりたい課題</p> <p>①里親制度の認知度の低さ 里親登録数の伸び悩みの原因の一つとして、里親制度の認知度の低さが考えられる。昨年度開催した里親座談会においても、里親制度について理解をしている人は限られている印象だった。引き続き、里親制度等の普及啓発をする必要がある。また、市民の認知度がどれくらいかを図る指標は存在しないため、より大規模にアンケート調査等を実施して認知度を明らかにした上で、より効果的な普及啓発の方法を検討することが重要である。また、認知度に加え、里親登録に至らない理由についても調査を進め、課題を整理する必要がある。</p> <p>②養育スキル獲得のための機会の少なさ 社会的養護の必要な児童においては、虐待など困難な生育環境を経験しているケースも多く、養育にも困難が予想される場合がある。そのような児童にさらなる負担をかけないためにも、一定の養育スキルを持つ里親登録者が増えてくれることが望ましい。しかし、スキルアップのために施設で暮らす子どもたちとふれあおうにも、そういった機会はきわめて少ない。</p> <p>③里親登録者数がまだ少なく、偏在していること 岡山市内の里親登録数は約110名であるが、まだ里親登録者がいない学区も存在するなど、児童を委託する上で生活圏が選べないなど、委託の阻害要因となっている。</p> <p>■市民ニーズの視点から</p> <p>①もっとも緊急かつ重要なのは、岡山市民である社会的養護の子どもたちのために一刻も早く温かい家庭の中で人格形成できる環境を整えることである。他の子どもが親と手をつなぎ家路につく姿を見て、社会的擁護の子どもたちが何を思うかは想像に難くない。この現状を看過することは、同じ市民としてできるだろうか。子どもの成長は待てない。</p> <p>②「施設で暮らす子ども達のために何かしたい」と思っている市民は年々増えている。ぐるーん(以下「当団体」という)に登録するサポーター・スポンサーの数、また活動を行うメンバーは増加の一途である。熱意を持った市民が、社会的養護の子どもたちに手を差し伸べる機会を創り出し、機を逸さずその力を有効に活かすことが重要である。</p> <p>③社会的擁護の子供たちは、生活体験の乏しさから自立後に離職してしまい、住む場所も失うなど困難に直面することも多い。自立支援をサポートする市民団体もあるが、サポートにも限界がある。里親委託によるサポートの輪を広げることが急務である。</p>				

<p>協働の必要性 及び効果と目標</p> <p>(協働の役割分担を含む)</p>	<p>1. 協働の必要性及び効果</p> <p>地域のつながりが薄れ、核家族化した社会にあって、子ども、実親、里親をどう支えるのかという課題を残したままで目標値のみを掲げられ、解決は自治体に委ねられている。</p> <p>岡山市子ども総合相談所としては、委託を推進するため、さまざまな課題を抱えた子どもたちの受け皿となる里親の開拓を目指しているが、虐待事例への対応や、既存の里親へのフォローは増加の一途である上、予算も上限があり、里親委託を推進するために新しい取り組みを展開するのは困難な状況である。</p> <p>一方、ぐる一んには、里親登録をすでにしているメンバー、里親・養子縁組制度に関心を持つメンバーが多く在籍し、乳児院・児童養護施設での抱っこを初めとした様々な活動を行っている実績があるが、里親への登録や子どもとのマッチング等、里親委託制度は子ども総合相談所が窓口と定められているため、ぐる一ん（以下「当団体」という）だけで、里親委託を促進することは難しい。</p> <p>岡山市子ども総合相談所とぐる一んは、「子どもを救いたい」という共通の想いを持っているにも関わらず、「一人ではかゆいところに手が届かない」状況なのである。それぞれが単独で頑張っていくだけでは、現状を変えていくにはスピードが遅すぎる。目の前で苦しんでいる子どもの時間は瞬間に過ぎてしまうことを考えると、一刻の猶予もない。</p> <p>今こそ、里親・養子縁組制度の普及を目指す両者が協働することで、課題の共有・既にあるネットワークの活用を実現し、里親制度の効果的な普及・啓発することが必要である。</p> <p>協働の効果は多岐にわたる。例えば、当団体が関与することで、既存の活動の枠にとらわれないアイデアを提案することができる。制度の周知には、民間の自由な発想が不可欠だと考える。「花育」といったワークショップを今回の事業では企画しているが、社会的養護の性質上、一般市民誰でも参加というわけにいかないイベントであっても、当団体のネットワークを利用して適した人選ができるため企画が容易となる。また、市が関与することで、当団体で作成した普及ツールを民生委員や愛育委員といった自治体のネットワークに配布を仰ぐことも可能になる。また、さらに、協働事業を通じて両者が緊密に話し合う機会が増えることで、お互いの立場や現状の理解が深まることにより、それぞれの単独での事業にもその効果がフィードバックされる。</p> <p>こうした取り組みは他の自治体でも始まっており、成功事例も出ている。実感としては、昨年度も協働して事業を実施したが、開催された座談会には回数を重ねるごとに人が人を呼び、広がりを見せている手ごたえがある。これを一過性のもので終わらせず、粘り強く継続していくことにより、子どもにとって「より望ましい環境」を提供するという利益を達成できると考える。</p> <p>2. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①里親制度の認知度の現状把握と、認知度アップ ②養育スキル獲得のための機会の設定と、その活用 ③里親登録者数の増加と、偏在の解消 <p>3. 提案団体が果たす役割</p> <p>数多くのサポーターの幅広い人脈を活かし、養育里親数の増加を最終目標に、まずはハードルの低い一時里親を増やすことに尽力する。このために施設入居中の子どもたちと実際にふれあい、理解を深め、里子養育への不安を払拭し、里親制度に関心を持つきっかけが提供できるよう、1年を通して花育・模型・鍵盤ハーモニカ等のワークショップを企画開催する。当該ワークショップでは子どもたち(里子候補)と一般市民(里親候補)が協力して1つの作品を作る。情緒や夢を育てる機会であり、施設や学校の先生とは違った大人とふれあう機会になる。また適切な手助けや言葉かけにより、子どもが根気よくかつ楽しく作品に取り組むことができる。</p> <p>団体メンバーには里親登録者、現役の里親も在籍しているため、これまでも登録希望者の相談や、広報媒体作成時の体験談寄稿等を行っており、今後も可能である。また団体活動として里親・里子へのサポーター派遣事業も行っており、里子を委託された後の孤立を防ぐと共に里親希望者の不安解消に尽力できる。</p> <p>4. 岡山市の担当課等が果たす役割</p> <p>社会的養護の必要な子どもたちの現状と家庭養育の必要性の周知、里親・養子縁組制度についての情報提供と専門的知見からのアドバイス。</p>
---	--

事業の内容	<p>①「里親制度の認知度の現状把握と、認知度アップ」のために 既存の子ども関係イベント等においてアンケート調査等を実施し、里親制度の認知度を明らかにする。また、併せて昨年度製作したタブストリー展示やリーフレットの配布などの普及・啓発活動を行う。イベントには里親登録者（特に未委託里親）に積極的に参加を促し、社会的養護への理解をより促進する場とする。 また、子育てが一段落した世代、社会福祉に関心のある学生、といったように、意識レベルや世代などターゲットを絞ったフォーラム（分科会を含む）等を実施し、世代ごとの効果的な普及啓発の方法や、里親登録に至らない理由について調査を進め、意見やアイデアを集約することで今後の施策化へ向けた資料をまとめる。</p> <p>②「養育スキル獲得のための機会の設定と、その活用」のために 児童養護施設で暮らす子どもたちと交流する機会を設ける事業を展開する。具体的には、施設においてワークショップを行ったり、施設外でのイベントを開催したりするなど。里親登録をしているが児童が未委託の里親は、委託への最も近い場所にいると考えられる。彼らが既委託里親や児童養護施設の子どもたちとふれあうことで、里親になる心構えを身に付けてもらうことを目指す。また、タイミングが合えば、里親と委託対象児童の「肩の凝らないマッチングの場」としても活用してもらう。以下に具体例を記す。 ・養育スキルアップとしての学習会の開催：虐待の影響による愛着障害と発達障害、自己肯定感を高めるプログラム等の開催 ・児童養護施設でのワークショップの実施（年9回） →花育…命ある生の花を使うことで、情緒を育てる。また、「贈る相手」をイメージ。 →家の模型作り…自分の住みたい家をイメージし、将来について考える機会とする。 →鍵盤ハーモニカ…大人と一緒にひとつのハーモニーを作り上げる。</p> <p>③「里親登録者数の増加と、偏在の解消」のために ・昨年度の事業で制作したリーフレット等を、愛育委員や民生委員を通じて配布。 配布する対象地域は、現在の里親登録者の分布等を考慮して決定する。また、里親に関する映画の上映会等を併せて実施（年1回）</p>																		
事業の実施体制	<p>1. 総括責任者 河本 美津子</p> <p>2. 個別事業責任者 フォーラム、学習会、冊子製作、ワークショップ：河本美津子 パネル展、リーフレットの配布：植山一夫</p> <p>3. 事業実施にあたっての専門性やノウハウ 全国のサポーター登録数は1300名を超え、岡山県は300名以上。定期的に施設に赴いたり年数回行うイベントやワークショップに参加したりして、施設で暮らす子ども達とのふれあいを経験している者も多い。その中から里親登録者や里親経験者・里親から養親になった者等があり、関心を持つ市民や悩みを持つ里親登録者に対して適宜相談を受け付けてきた。昨年度開催したワークショップでも施設の子どもたちに対する受容と適切な声掛けで、会を重ねるごとに大人も子どももよい時間を共有できた。 また東京都では里親心得座談会の他に、毎年行うサポーター交流会には里親や専門里親の話を聞く機会を設けている。岡山市でも連続して里親心得座談会やDVD鑑賞会を開催。専門里親を招いての講演会（参加者延べ90人）、岡山県と連携した里親心得座談会（参加者50人）と里親に関するDVDの鑑賞会（参加者30人）等を開催した実績がある。</p>																		
事業スケジュール	<table border="1" data-bbox="397 1384 1347 1794"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>実施事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月</td> <td>里親フォーラム（1回）</td> </tr> <tr> <td>6, 1月</td> <td>児童養育に関する学習会と座談会（2回）：虐待の影響による愛着障害・発達障害、自己肯定感を高めるプログラム等</td> </tr> <tr> <td>5, 7, 11, 2月</td> <td>「花育」ワークショップ（4回）</td> </tr> <tr> <td>9, 11, 12月</td> <td>鍵盤ハーモニカワークショップ</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>模型ワークショップ「こんな家で暮らしてみたいな」（1回2日間）</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>パネル展（10月里親月間内） 里親に関する冊子製作。 里親の日チラシ配布</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>DVD鑑賞会と座談会</td> </tr> <tr> <td>未定</td> <td>子どもイベントでのアンケート</td> </tr> </tbody> </table>	月	実施事業内容	10月	里親フォーラム（1回）	6, 1月	児童養育に関する学習会と座談会（2回）：虐待の影響による愛着障害・発達障害、自己肯定感を高めるプログラム等	5, 7, 11, 2月	「花育」ワークショップ（4回）	9, 11, 12月	鍵盤ハーモニカワークショップ	8月	模型ワークショップ「こんな家で暮らしてみたいな」（1回2日間）	10月	パネル展（10月里親月間内） 里親に関する冊子製作。 里親の日チラシ配布	7月	DVD鑑賞会と座談会	未定	子どもイベントでのアンケート
月	実施事業内容																		
10月	里親フォーラム（1回）																		
6, 1月	児童養育に関する学習会と座談会（2回）：虐待の影響による愛着障害・発達障害、自己肯定感を高めるプログラム等																		
5, 7, 11, 2月	「花育」ワークショップ（4回）																		
9, 11, 12月	鍵盤ハーモニカワークショップ																		
8月	模型ワークショップ「こんな家で暮らしてみたいな」（1回2日間）																		
10月	パネル展（10月里親月間内） 里親に関する冊子製作。 里親の日チラシ配布																		
7月	DVD鑑賞会と座談会																		
未定	子どもイベントでのアンケート																		
実施する上で連携が必要と思われる団体と期待される役割	<table border="1" data-bbox="365 1827 1414 1962"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>期待される役割</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岡山市里親会</td> <td>未委託里親の養育スキルアップ</td> </tr> <tr> <td>GAP おかやま</td> <td>児童養育に関する学習会の企画</td> </tr> </tbody> </table>	名称	期待される役割	岡山市里親会	未委託里親の養育スキルアップ	GAP おかやま	児童養育に関する学習会の企画												
名称	期待される役割																		
岡山市里親会	未委託里親の養育スキルアップ																		
GAP おかやま	児童養育に関する学習会の企画																		

協働事業収支予算書

提案事業名	里親委託を推進するための、里親制度の普及啓発及び委託促進事業
--------------	---------------------------------------

<収入>

費目		金額	内訳
自己資金等	申請団体 自己資金	0円	
	合同提案団体 負担金等	0円	
自己資金等合計(a)		0円	
事業収入見込	学習会参加費 500×30名×2回	30000円	
事業収入見込合計(b)		30000円	
岡山市補助金申請額(c)		1160000円	
収入合計(d)=(a)+(b)+(c)		1190000円	

<支出>

費目		金額	内訳
事業実施経費	謝金	290000円	里親フォーラム講師謝礼 50000×2名×1回 学習会講師謝礼 50000×1名×2回 ワークショップ講師謝礼 10000×1名×9回
	旅費(交通費)	70000円	フォーラム・学習会講師交通費 20000×3名 1回、10000×1名×1回
	ワークショップ材料費	159000円	花育ワークショップ材料費 2000×15人×4回 模型ワークショップ材料費 1500×20人×1回 鍵盤ハーモニカワークショップ楽譜コピー代 100×30名×3回
	印刷製本費	500000円	冊子作製費、リーフレット増刷費、各事業のチ ラシ印刷費
	消耗品費 会場費	50000円 21000円	文具、用紙代、会議・フォーラム用茶葉代等 7000円×3
事業実施経費合計(e)		1090000円	
管理運営経費	人件費	100000円	1000円×2h×2名×20(企画会議) 1000円×4h×5名(パネル展、チラシ配布)
管理運営費合計(f)		100000円	
総事業費(g)=(e)+(f)		1190000円	※収入合計(d)と同額

- (添付書類等) 1. 人件費等については、積算の根拠(これまでの実績や独自の単価表)を添付すること
2. 参加料などの事業収入を見込む場合は「事業収入見込」欄に計上すること